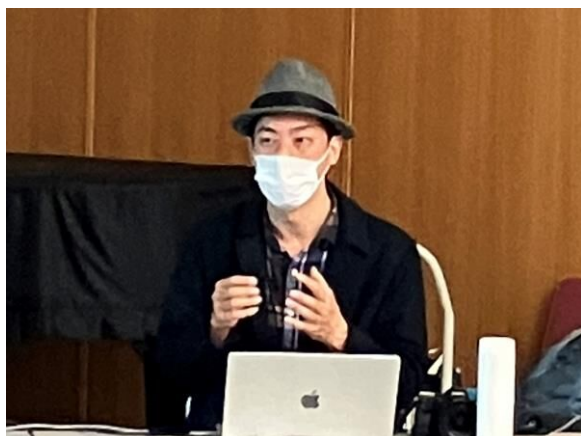


里海フォト 発見&発信講座

開催しました！



- 日時 令和4年11月23日（水・祝）13：30～16：30
- 会場 仁尾町文化会館、仁尾のまちなみ
- 講師 ゆう さかな（デザイナー・フォトグラファー）
- 講師ガイド 河田 典子（まちあるきガイド）

11月23日（水・祝）に、「里海フォト 発見&発信講座」を開催し7名が受講しました。本講座は港町の歴史を感じさせる風情のある建物や街並みが魅力の仁尾を舞台に、スマホを使って里海の魅力を撮影し、SNSへ発信するコツを学ぶことを目的に開催されました。

はじめに、講師のゆうさかな氏より撮影と発信のコツについての講義がありました。SNSで発信する際には、短い文章で的確に伝えることや視覚以外の五感を言葉で表現し、綺麗・すごい・かわいい等の直接的な表現を避け、身体感覚や映像を表現することのほうが印象に残りやすいことなど、SNSをより効果的に使うためのアドバイスをいただきました。

また、撮影の基本としてブレないように撮ること、いっぱい撮ることが大切だそうです。さらに、写真の水平・垂直を意識することや何を撮って何を撮らないのかなど、構図を意識することが重要であるというお話に受講者はメモを取るなど熱心に聞き入っていました。

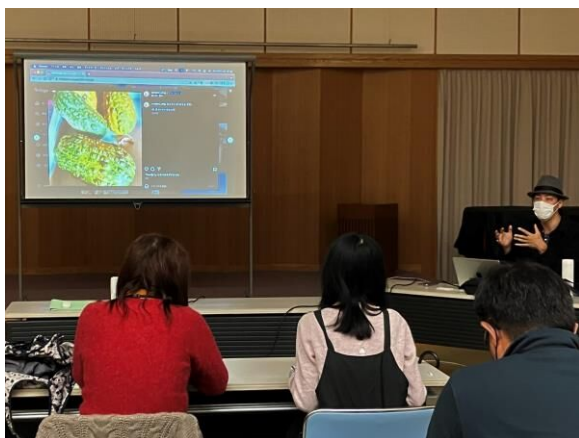
次に、まちあるきガイドの河田氏より仁尾の歴史についてのお話がありました。江戸時代には鳶島が防波堤の役割を果たし、参勤交代や千石船が出入りするほどの良港として栄えたそうです。当時の写真や資料を交えた解説に、受講者たちは興味深く聞き入っている様子でした。



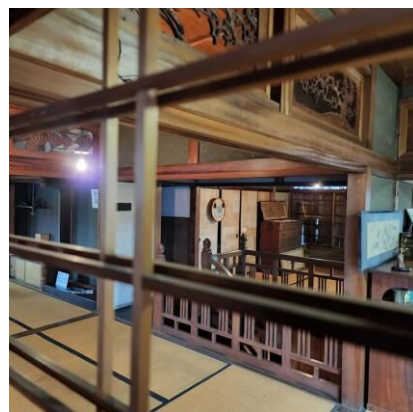
座学の後、河田氏の案内で仁尾のまちなみを歩きながら撮影しました。仁尾町文化会館を出発するとすぐ、お酢の良い香りが漂ってきました。江戸時代から続く仁尾酢の醸造元である田野屋（中橋造酢(株)）、懐かしいレトロな店構えの伊藤製パン所、仁尾の町を一望できる覚城院、海上交通の要港として古くから栄えていたことを示す金毘羅灯籠など、仁尾の歴史や文化に触れ、受講者たちはその魅力をカメラに収めていました。そして、明治・大正・昭和と仁尾町に繁栄をもたらした旧塩田忠左衛門邸である松賀屋を見学しました。



松賀屋は築100年以上の邸宅で、50年以上空き家になったものをクラウドファンディングなどを活用して修繕し、一般社団法人松賀屋によって管理され、不定期ですが一般公開もされているそうです。壁や瓦、欄間や中央階段の松ぼっくりの彫り物など建物の各所に細やかな職人による手仕事が行われており、書齋や和室などは当時の暮らしが再現されていました。受講者は視点を変えたり奥行きを調整するなど、座学で学んだポイントを意識しながら撮影を行いました。



まちあるきを終え、仁尾町文化会館へ戻りました。受講者はInstagramに投稿し（#かがわ里海大学）、講師による講評をいただきました。天気が悪い時や水平・垂直に撮るために役立つスマートフォンとInstagramの機能の紹介や、撮影時のテクニックについて分かりやすく解説いただき、受講者は座学と実践を通じて撮影のコツをつかんだようでした。講座終了後、受講者より「気になっていた事が理解出来て良かった」、「内容が盛りだくさんで、あっという間だった」等の感想がありました。



※受講者が撮影し、Instagramに投稿した写真の一部（#かがわ里海大学）

講座当日は生憎の雨でしたが、仁尾の魅力を感じ取ることが出来ました。里海の魅力SNSで発信することで、多くの人に知ってもらい、実際に足を運んでもらうことで、美しいまちなみや自然を次の世代に伝えていくきっかけとなるような大変有意義な講座になりました。